

令和4年10月4日

報道機関 各位

COVID-19 感染拡大と子どもの心理的变化 富山県「子どもほっとライン」の取り組みと貢献

■ ポイント

富山大学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻博士課程の井上真理子らのグループは、2017年1月から2020年9月末までの富山県「子どもほっとライン」に寄せられたデータを用いて、新型コロナウイルス感染拡大前後における相談件数・相談者の年齢層・相談内容の違いを調べました。その結果、2020年は5月から6月にかけて急激に相談件数が増加したこと、新型コロナウイルスに関連した単語が含まれるものは相談件数の1割程度であることを明らかにしました。



- ・この研究成果は心理学系専門誌「心理学の諸領域」に2022年9月7日に掲載されました。
- ・ https://www.hpsj.org/wp/wp-content/uploads/vol.11_online-first_4.pdf

論文に示した見解は著者自らのものであり、教育委員会の見解ではありません。

【本発表資料の配信元】富山大学総務部総務課広報・基金室 (TEL)076-445-6028 (FAX)076-445-6063

■ 研究の内容

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校現場では休校や学校行事の中止など、新型コロナウイルス感染そのものに対する不安に加え、新しい生活様式によって生じるストレスがあったと予測されます。文部科学省(2021)の調査によると、小中学校における不登校児童数は196,127人であり、8年連続で増加が続いていることを明らかにしています。

こうした中、富山県「子どもほっとライン」では、子ども達の様々（友だち関係、自分の心や体、部活動、勉強や将来、スポーツ、文化など）な悩みや質問について、カウンセリング技法を学んだ大学生や大学院生が相談に応じています。開設当時より、電話・メール・FAXという非対面による方法で相談業務を行なってきたため、新型コロナウイルスの感染拡大状況にかかわらず通常通りの相談業務が行われてきました。

そこで、この研究では、富山県「子どもほっとライン」に寄せられた相談件数や相談内容の経年変化を検討することを通じて、新型コロナウイルス感染拡大時における子どもほっとラインの貢献を調べました。具体的には、2017年1月から2020年9月末までの子どもほっとラインに寄せられた相談件数・相談者の年齢層・相談方法の全体的傾向を報告すること、全国や富山県内における新型コロナウイルスの新規感染者数と相談件数や相談内容の変化を検討しました。

その結果、新型コロナウイルスの感染拡大が見られた2020年は、相談件数が5月6月にかけて急激な上昇が見られ、一番相談件数の少ない月と、最も多い月の相談件数の差が約2倍という大きな差が見られました（図1）。また、2020年1月から2020年9月の対応相談件数445件のうち、「コロナ」「自粛」「密集」「学校が休み（新型コロナウイルスが影響する内容のみ）」など、新型コロナウイルスそのもの、もしくは新型コロナウイルス感染拡大に関連した単語が含まれているものは、43件（9.7%）でした。

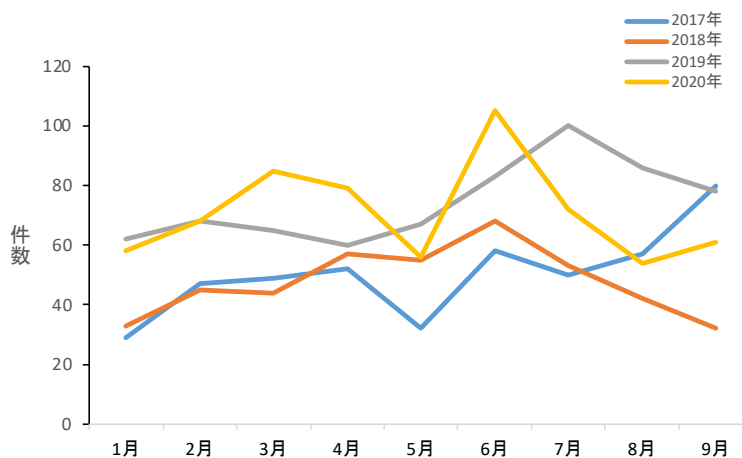


図1 2017年から2020年までの相談件数（1月から9月）

文部科学省の調査によると、2020年6月1日時点で国公私立校の98%が学校を再開しています。学校再開に伴い、勉強や進路への不安、新型コロナウイルス感染に対する不安については報告されています。富山県内では「不登校はどの子どもにでも起こりうる問題 (<https://www.pref.toyama.jp/3002/kurashi/kyouiku/jidou/kj00001263/kj00001263-001-01.html>)」として情報を提供しており、2020年6月に相談件数が増加した結果は、こうした機序と関係しているものと推測されます。

子どもほっとラインは、新型コロナウイルスの感染拡大時において、子ども達が相談できる場所の確保に貢献してきました。また、本研究が示した結果は、新型コロナウイルスの感染拡大前後で比較した新規性の高い情報です。しかし本研究では、新型コロナウイルス拡大に関連した相談内容のみを抽出したため、それ以外の相談内容に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことが想定される内容がなかったのか不明であることの限界が挙げられます。今後も、感染拡大防止を意識した生活を続けていかなければならないこと、心身の不調は時間が経ってから発症することも珍しくないことから、今後も継続的に子ども達の心身の変化を意識する必要があります。

富山県 教育委員会 生涯学習・文化財室「子どもほっとライン」WEB サイト

<https://www.pref.toyama.jp/3009/kurashi/soudanshishitsu/madoguchi/kj00002346.html>

【論文詳細】

論文名：富山県「子どもほっとライン」の取り組み。—COVID-19の流行状況の前後に着目して—

Toyama Prefecture's "Children's Hotline" initiative —during the COVID-19 pandemic, focusing on the changes before and after—

著者：井上真理子・土田暁子・浜崎景・稲寺秀邦

掲載誌：心理学の諸領域（2022年9月7日オンライン掲載）

・ https://www.hpsj.org/wp/wp-content/uploads/vol.11_online-first_4.pdf

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学 医学薬学教育部 公衆衛生学講座 井上 真理子

TEL:076-434-7278 (直通) Email:d2062003@ems.u-toyama.ac.jp

ウェブサイト：<http://www.med.u-toyama.ac.jp/publth/index.html>